

# ¡Hola, amigos!

第095号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2006年02月10日 カァディスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは094号(01月13日)、093号(01月06日)

092号(12月30日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



(お知らせ)

お待たせしました。また、しばらくナガッパナシにお付き合いください。

ベナルマデナで始めた「マラガからの手紙」は50号で休止でしたね。「カアディスからの手紙」もまもなく50号、通算では100号になります。A4判にプリントしたものはとうに1500頁を超えました。そこで、突然ですが、キリのいい100号をもって完結ということにしたいと思います。クタバルまで書き続けるつもりでしたし、決して書くのが億劫になったり、種が尽きたというのでもありません。

廃刊の最大の理由は、いずれ遅かれ早かれ私達も撤退を考えなくてはならないと思いはじめたからです。現在の生活に飽きたわけでも、スペインが嫌になったわけでもありません。出来ればここでこのまま暮らしていたいのはヤマヤマなんですが、現実問題となると色々な困難が予測されます。ここで今迄のように楽しく暮らすには二人揃って健康であることが大前提ですが、年齢差などを考えると遠からずこの前提が崩れることは必至です。諸物価の急上昇や為替レートの変化も悪い材料です。

スペインに来るに際してはカナリの思い切りとエネルギーが必要でした。日本へ帰るときもそれに勝るとも劣らない物心両面の負担があると思います。日本に自分の家があつてそこへ帰るのではありませんから、元気なうちでないと難しいと思うのです。撤退の時期はいまのところ全く未定ですが、本年9月より早い、ということはないと思います。カアディスの無料ペンションへの訪問を考えておられる方は早めに実行なさってください。予約が重なりさえしなければ、いつでも大歓迎です。

ご愛読を続けて下さった皆さんには申し訳ありませんが、こんなわけで、第100号3月17日号を最終号と致します。長らくのご愛読ありがとうございました。

2006年02月10日 カアディスにて。 R y N

---

## 「アルコス・デ・ラ・フロンテーラ」の巻

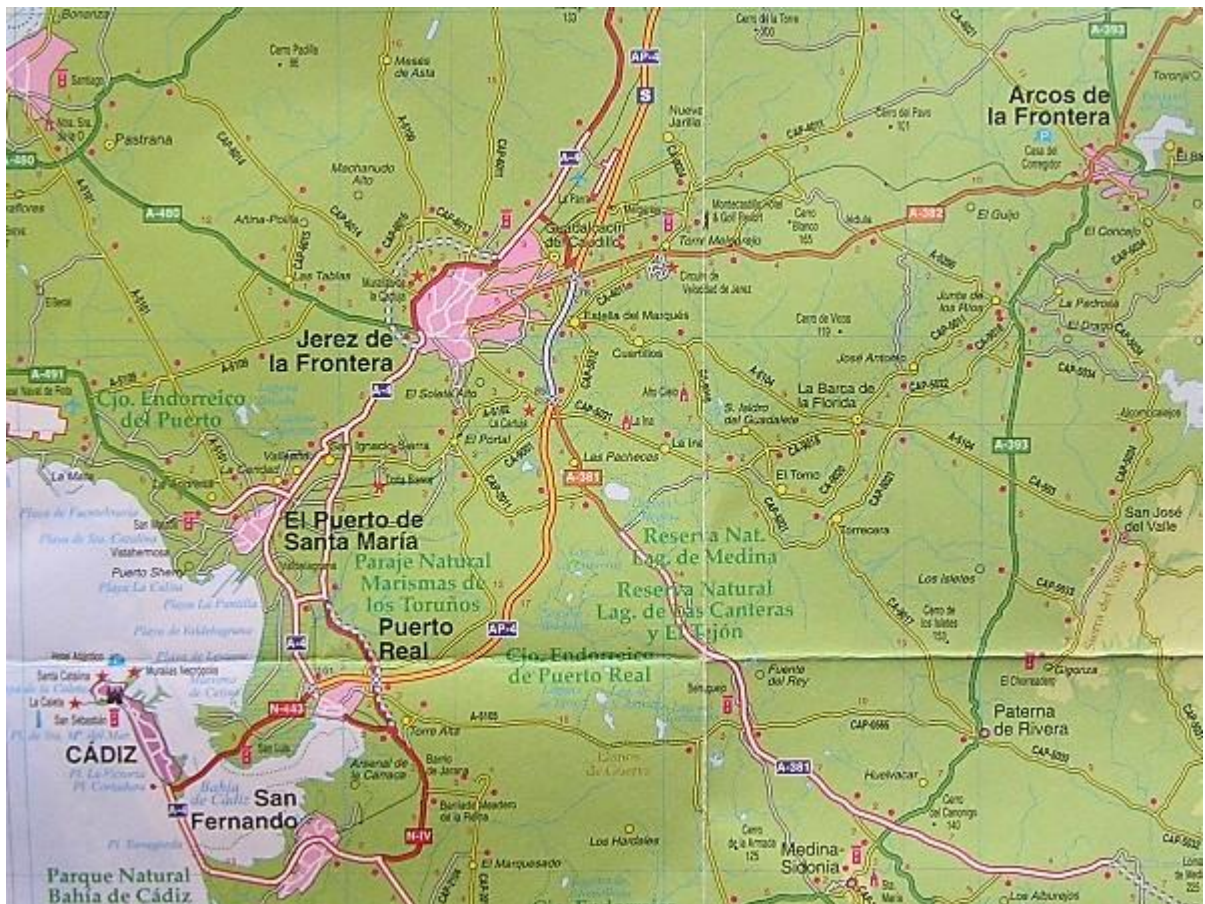
---

さて、ではあと数週間、気合を入れてゆきます。今日はまずエクスカーションから。カァディス県のあちこちの地名にデ・ラ・フロンテーラという言葉がくつつく所がたくさんあることは何度もお話ししましたね。今までに登場したところでは、例えばヘレス、チクラナ、ベヘールなどがそうでした。これらの場所はいずれもイスラムの支配下にあった頃の名残があるところです。

デ・ラ・フロンテーラ de la frontera は「国境の」という意味です。大災害の救助活動などに活躍する「国境なき医師団」はメディコス・シン・フロンテーラス Médicos Sin Fronteras と言います。シンは「無い」で休肝日はシン・アルコールとなるわけ。また、このデ・ラ・フロンテーラがついた町はイスラム教徒とキリスト教徒が共存していた所なんだそうですが、キリスト教徒がイスラムを一掃した後、異教徒の建物をことごとく破壊してキリスト教の様式に替えてしまった所と、遺跡として比較的健全に残してある所と、カナリの差があるようです。私達が知る限りではヘレスやベヘールには多くのイスラムの匂いが残っているように感じました。

今日のお話はアルコス、正しくは Arcos de la Frontera ですが、バスの切符を買う時などは単にアルコスと言えば通じます。このアルコスにもイスラムの遺跡は多少残っていますが、その上にキリスト教の教会などをかぶせてしまった所が殆どです。こういう古い町、イスラム支配の頃から栄えた所へ行くといつも感じるのですが、イスラムを追い払った後、キリスト教の支配者も、イスラムに負けぬくらい宗教の持つ力を最大限に利用して民心の安定を図ろうとしたことが窺えます。カトリックの国は大方同じでしょうが、その頃、キリスト教の民衆に与える影響力は強大だった筈で国の隅々まで宗教をしみこませて治世とした、政教の完全なる一致ですね。

スペインでは2年前革新党政権になって、政治の教会離れが鮮明にうちだされているし、そうでなくても若い世代の宗教離れは時代の趨勢でしょうから、コレからがこの国の正念場のような気がします。宗教のタガを外れた世代が国をどう変えてゆくか？



地図の右上がアルコス。バスはカアディス湾をまたぐ橋を渡りサンタ・マリリアとヘレスで停車して、アルコスに向かいます。往路は約一時間半、復路は約一時間。この違いは往路と復路で乗ったバスの会社が違ったからで、帰りはヘレスしか寄らずしかも往路のヘレスでは時間調整のため長く停まったのに、復路は乗下車のための一時停車だけ。しかも短時間で着いた復路のほうが安いとくるのですから驚きです。日本では同一路線に複数のバス会社が運行していることは良くありますが、大抵料金は同額だし、バス・カードなども共通で使えるところが多いですね。例えば横浜などでは市バス・神奈中・京急・相鉄などのバスが同じ路線を走っているところは全部そうなっていると思います。しかし、スペインではそういう会社間の協定などはなさそうで、中長距離バスと市内バスをリンクする考えすら徹底していません。鉄道駅の前に長距離バス・センターがある所も少ない。利用者の便利など、どうでもいいのか。

およそ各交通機関のリンクなどは考慮されていないとしか思えません。

日本の大都市の交通機関の乗り換えの便や過密ダイヤなどは、この国のヒトには到底考えられないことでしょう。まあ、その必要もナイカ、または不便と感じナイカ。





アルコスも旅行案内書にも「アンダルシアの白い町」の一つとして紹介されています。山の上または山間にあるというのが「白い町」の共通項ですね。平地でも白壁・オレンジ色の屋根という集落はあちこちにありますが、そんな所は旅行案内等では見向きもされません。このアルコスもベヘールと同様に山の上の町です。

これは麓にあるバス・センターの近くから撮った写真ですが、頂上から右の方は切り立った崖になっていますね。特に右端のほうはむき出しの崖が見えています。本当は一番高い古城の下も同じような崖ですが手前の樹木で隠れているんです。コレは山の南側になります。一方この写真で見る山の向こう側、北側はこんな絶壁は無く、なだらかに下って麓の平野部や湖水に連なっています。

こういう地形でマズ思い出すのはジブラルタル。あそこの写真を憶えていますか、ジブラルタルでは東側が切り立った断崖で西側がなだらか。そこで聞いたガイドの話では「古代の断層地震で一気にこういう地形になったが今でも年間零点何度かの割りで傾き続けている」のだとか。ここもいかにもソレらしい地形です。それにしてもナンだかってこんな山の上に城を築き町を造ったのか？ 不便でしょうがないじゃナイカ。



大分登ってきました。これは山の中腹にある公園から。麓から此处までは道路も拡幅されて、というか、市街も比較的新しい部分らしく、普通サイズの市内バスが上って来れます。この辺から上はもうミニ・バスしか入れません。私達はあえてバスには乗らずユックリ散策を楽しみ（あるいは苦しみ）ながら歩いて登ってゆきました。

さっきの写真とは角度が変わったので城の左側に教会の鐘楼が見えてきましたね。やっぱりここでも政教一致です。君臨するものは常に宗教を利用したか？

この城は元々イスラムの城だったものを後にスペインの豪族が立て替えて自らの居城としたものだそうです。現在も個人の所有物で一般公開はされていません。

日本にも山城はありますが、平城だって結構ありますね。スペインの城は私達の知る限り殆ど山の上、そしてその周りに村や町が出来ているケースが殆どです。カアディスは数少ない例外の一つでしょう。カアディスはまず天然の港があったからこそ出来た集落だし、山城を築こうにも山が全くありませんからね。山城の一番の利点は「難攻不落」でしょうが、ホントニそうだったのか？ 麓を囲まれて粘られたら？





こうして、アヘアヘしながら登ってゆきます。場所によってはこんな急坂もありますが、まあコレは裏道の特別なところ。でもミニ・バスの通るメインの道路でも15度や20度は当たり前、この坂なんか40度位ありますね。お年よりは辛い町。しかし、現実には麓の平地の新興住宅地に逃げるのは車世代の若い層で、坂の町・旧市街には年寄りばかり残っているみたいな感じがします。そして、路面はアラブの町特有の玉石の敷石道、雨でも降ったら危なくてしょうがない。ツルツルだもんね。





登って行くに従って道は段々狭くなります。そして白壁のそこここには例によって花の鉢がありますが、この町はそれほど奇麗に飾ってあるとも思えません。



一步横道にそれるとモウこの通り。ヒトがやっとすれ違えるくらいの幅しかない路地が迷路のようにくねっています。先までずっと見通せるようなところはありません。これも敵の攻撃を阻むための工夫の一つなのでしょうね。右のバー様たちは両側の壁をこするようにして、おしゃべりしながら登っていきます。狭い路地の壁に三人の声が反響して・・・姦しいとはこのことか？ 狭い路地に入ると階段になっている所が断然多い、傾斜が急すぎて玉石の敷石路面では滑ってしまうからでしょう。





山の頂上は小さな広場になっていて、その南面は断崖を見下ろす展望台。反対側はこの教会、向かって左側に市役所とその奥が例の個人のお城。右手はパラドール（国営ホテル）になっています。私達が行ったのは1月末のことで、観光客もゴクわずか、

展望台にもたまたまポツリポツリ個人単位の観光客が来る程度でした。

それならと、私達はここで下界の景色を見ながらオベントを広げました。いつもの通りミニ・クロワッサン・サンド。今日の中身はブリー・チーズとカベサ(豚の頭肉)、レチューガ・ロマーノ(ローマン・レタス)。本日アルコール解禁日で缶セルベサも。私達がベンチでこんなものを作っているのと、後からきた北欧系らしい若い二人連れも少し離れたベンチに座りました。見るともなく見ていると、彼らはスーパーのレジ袋からバラ barra(バゲット=棒状のパン)とチーズやビニール袋入り野菜サラダなどを取り出してその場でサンドウィッチを作っていました。まず、長いパンを真ん中でちぎって、夫々を横から半割りに、そしてチーズをはさみ、野菜を押し込んで、以上全てナイフなど使わず手作業でやりました。私達の視線に気付くと出来上がったサンドを持ち上げてニヤリ。彼らはセルベサなし、ペットボトルの水でしたネー。



これが展望台から南東方の眺め。左の張出しと同じものがコッチにもあり、そこから身を乗り出してとったもの。張出しの向うに見えるガラス窓はパラドールの食堂。その向うはこの広場の教会とは別の教会で最初の写真で右手に見えていたものです。地震国ニッポンから来た私達には背筋が寒くなるようなところに建造物がありますがこの国の人達は地震など絶対にナイと信じ込んでいるのでしょうか？　しかし、この地形が出来たまさにその時は断層地震があったんじゃないのでしょうか？　しかも、岩の質もジブラルタルのようないかにも硬い岩盤ではなく、崩れ易い砂岩のように見えます。事実この写真の下のほう、崖の裾部分に草が生えている斜面は明らかに上から崩れ落ちて出来たものと思えます。カメラの真下は向うの崖より更に高く下のほうまでまっすぐに落ち込んでいました。





これは南西方の眺望。この山の周辺の平野部は殆どがオリーブ畑と牧草地です。



別の展望台から北東方を。この湖水は夏の渇水期には貴重な水瓶になるのでしょう。





広場に面した教会の側面、というか本来はこちらが正面なのでしょう。ここもアラブのモスクがあった所へおっかぶせて教会を造ったもので、この部分が一番古く13世紀、さっきの広場に面した鐘楼部分が一番新しく18世紀半ばのものといえます。全

体の完成までに約5百年も掛かっているんですね。気が遠くなるほど気が長い。

この建物を良く見てください。既に風化が進んで精緻な彫刻も大分ぼろぼろになっていますが、イスラム教徒の去った後、キリスト教徒が渾身の力を込めて造ったであろうことが窺える緻密さです。更によく見ると大部分が左右対称になっているのに、両側の角部分だけは全く違っています。スペインの大型建造物では良く見かけることで

ずっと前に紹介したマラガの大聖堂もそうでしたね。何故こうなるんでしょう？

建造開始から完成まで500年も掛かれば、その間には建築様式も変わってくるし、設計思想も変わってきてしまうのは仕方のないことでしょう。マラガのもそうですがこれなども右角の部分を造りかけたところでヤリッパナンにしてしまった感じです。

ほかの部分の精緻さと明らかに違います。そして左角はもう手もつけずやめてしまっ

たのか？ まさか初めっからこういう設計ではなかった筈と思うんですけどね。





建物はアラブのものを取り壊してキリスト教のものに造り替えています。足元はイスラム教徒が残したそのままです。どうせ踏んづける所だから異教徒のものでもヨシとしたのかどうか。上は石の階段ですが、こんな内陸の山の上にもどう見ても海底で出来たであろうと思われる石が使われています。このとおり貝殻がたくさん散らばっていますね。勿論、人造石なんかではなく自然石です。遠く海岸から運んできたのか？

それとも今では内陸の山の上ですが先史時代にはこの辺も海底だったのか？



もう一つ、懐かしいものを見つけました。船乗りがコンパス・マークと呼ぶ八方位をあらわす図案。商船学校の校章でもありました。ソレをこんな山の上で見つけるとは・・・。そういえば、アラブの民もシンドバッドの昔はよき航海者でしたよね。





白い村として有名なところ、日本人旅行者にも知られたところと言えば、まずミハスそれからフリヒリアーナでしょうか。なるほど、この二箇所はそのまんま絵になる白壁・オレンジ色の屋根・赤い花の三点セットが揃っていました。

その点アルコスはそういうカワイッポイ飾りはあまりありません。それは1月末という季節のせいばかりでもなさそうで住民の美意識の違いでもあるような印象を受けました。何しろデ・ラ・フロンテーラですからね。

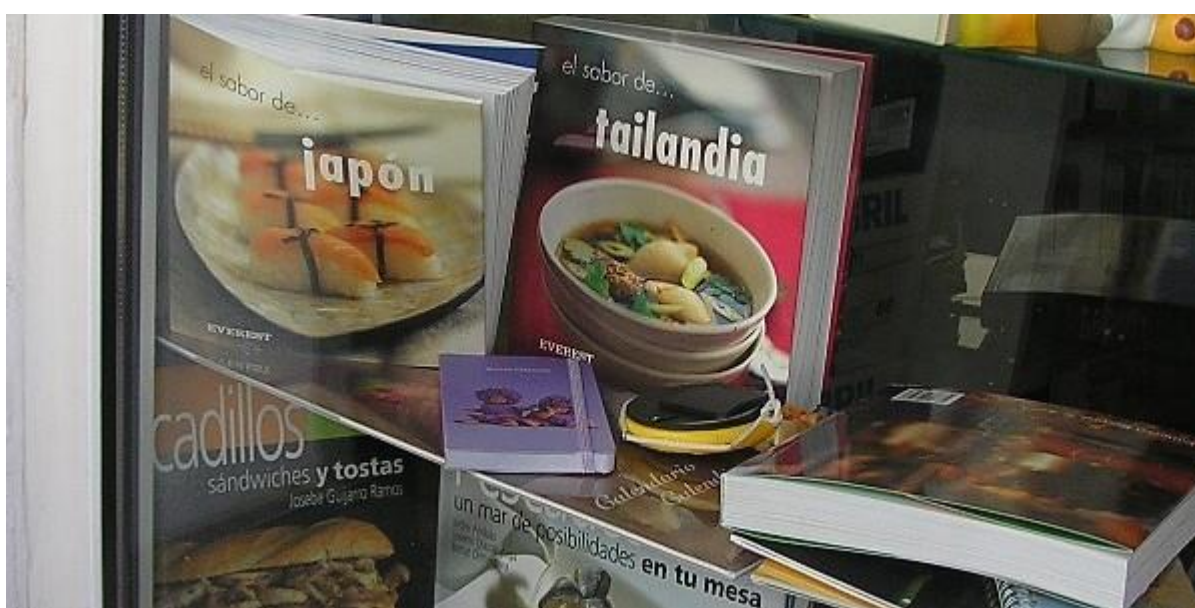
現在はアラブ系の住民がどれだけいるか知りませんが、グラナダほど多くはないと思います。それどころか、町で出会った人達はゴク普通のスペインの町と同じでした。むしろ港町カァディスのほうが、より多くのアラブの顔が見えます。通りに面した壁はあまり飾り立ててありませんが、通りがかりに中庭を覗くとこの通り。色彩には乏しいですが奇麗にしていますね。左はピソ(日本式に言えばマンション)のパティオ。

右は病院、その名もオスピタル・デ・サン・フアン・デ・ディオス。カァディスの市庁前広場と同じ名前。こんな病院なら入院してみても良いな、なんて思ったらこれも現在は「高級」マンションになっているようです。どっちみち縁はナイカ。





行き止まりの路地の奥にあったみやげ物屋と右奥は同じ経営のペンション。こんなところなら私達のフトコロでも安心して泊られます。雰囲気もイイですね。でも部屋の居心地はそんなに快適ではないかもしれない。なにしろ設備は古そうですからね。



いい加減歩き疲れて山を下りると、麓の町の本屋にこんな本が。こんな田舎に日本料理の本とは嬉しい限りです。日本の本当の味を「正しく」伝えて欲しいものですね。



ながい坂を下って、下って、そろそろツマサキが痛くなりかけた頃やっと麓のバス・センターに着きました。結局登りも下りも山の上の移動も全て歩いてしまいました。

約4時間オベント以外は歩きっぱなし。些か疲れました。

案内所でもらった観光地図によれば、まだまだ見物すべきところは沢山あるようでしたが、殆どの場所に時間制限があり、しかも午後1時・2時から5時・6時頃まではシiestaになってしまうので日帰り旅行者にはどうしても不都合です。

この辺がアンダルシアの泣き所で、全てがこういう感覚では、やはりEUの一員としてビジネスで肩を並べるのは難しいんじゃないか、と思う反面、だからこそこの土地では時間がユックリ過ぎてゆくんだ、イイじゃないか、とも思えます。

朝ユックリ起きて昼頃この町の麓に着くバスに乗ると、殆ど何もしないうちにシiestaの時間になってしまうし、シiestaが終わる頃にはもう帰りのバスの時間が心配になってきて気もそぞろということになってしまいます。第一シiestaで町が死んでいる間、何をして過ごせというのか？ まあ、次の機会には早起きして午後1時までに見落としたところを回るとしましょう。明日は足腰が痛いだろうなあ。\*\*\*

---

## 「タルヘタ・65」の巻

---

去年11月に65歳以上の優待カードの話をしましたね。タルヘタ・セセンタ・イ・シンコ tarjeta sesenta y cinco というんですが、このカードを発行してくれるという案内を州政府から貰ったので、11月16日にカアデイスにある州政府の出先オフィスに出頭して申請をしてきました。

その時、申請書コピーに申請受理のゴム印を押してくれた係員が、一ヶ月したら自宅に郵送される筈です、もし一ヶ月経過して受け取れなかったらココに電話しなさい、と本庁の相談室らしい電話番号を教えてくださいました。まあ、どうせキッチリ予定どうり来っこないさ、一ヶ月というんならマズ二ヶ月待ってみようと思っていました。

1月16日、丸二ヶ月経過しましたが、何の音沙汰もありません。ヤッパリね。問合せ先の電話番号があったってハナッから電話で聞く気などありません。面と向かってだってスペイン語で一部始終の説明をして、解決してもらうのは容易ではありませんからね。申請した時の係員が居てくれたら話は早いんだけどな、と思いつつまたオフィスへ行きました。こういう場合、私達のように外国人の中でも特に珍しい日本人は、相手が確実に憶えてくれている点が便利です。

ところが、残念ながらその日は例の係員はおらず、私達の順番に当たったのはメルセデスという女性でした。エー、今から丁度二ヶ月前タルヘタ・65の申請をしたんですがまだ受け取れて居ません、これはノルマルなんのでしょうか。と申請書コピーを見せました。彼女はコピーを見て、2ヶ月前？ そう、ノルマルだわねー、といったんは言ったものの、チョット待って、とあちこち電話し始めました

どうやらこの事務所内の他の部門や本庁に問い合わせているようでしたが、段々早口になって来たところを見ると問い合わせている相手の返事が面白くない様子です。何本も電話しているうちに、この事務所内の他の部屋から別の女性が書類綴りを持って来てソレを見ながら二人で話し込んでいました。そしてとうとう、今日のところはコレで帰って頂戴、調べがつき次第電話しますから、ということになりました。





申請書類が行方不明にでもなってるだろうか？と半信半疑でウチへ帰ると郵便受けに封筒があり、中には上のカードが入っていました。勿論、この写真は拡大で、大きさは普通のカード・サイズです。なーんだ、モウ一日待ちや良かったね。

ソレニシテモ、この州の政府機関はこの手のことをコンピューター処理していないんだろうか？そして出先機関は本庁とオンラインで情報をやり取りできないんだろうか？誰がイツ申請して、誰にはイツ発送済み、ナンテ簡単なことが何十分もかかって分からない、ということが解りません。相談窓口にはこの手の質問が殺到するだろうに、その度に一人当て何十分も掛けて調べるんだろうか？一生懸命調べてくれたメルセデスには悪いけどこの役所「モ」だめだなー。まっ、彼女には明日礼を言おう。翌朝一番で役所に行き、メルセデスに、昨日はどうもありがとう、アレからうちに帰ったらコレが届いていました、と封筒ごと彼女に見せました。あら、そう、チョット見せてね、と中のカードを調べていましたが、エストゥペンド（素晴らしい）良かったわねー。シー、ムーチャス・グラシアス。で、一件落着。

しかし、この時点までに、彼女のところには昨日の問い合わせの返事は来てないんですよ。だって再び私達が現れた時、彼女は私達が既に受け取れた、またはいずれは間違いなく受け取れる、ということはまだ知っては居ないようでしたから・・・。親切な彼女に当たったから印象は悪くなかったけどこの役所はホントにダメだなー。このカードの有効期限は2011年1月までだから、更新する為にまたこの役所に来ることはマズないでしょう。

# VENTAJAS

Con su tarjeta podrá acceder a servicios y descuentos exclusivos:

- **Solicitar el Servicio Andaluz de Teleasistencia.**  
Con descuentos del 40, el 80 y hasta el 100%.
- **Realizar desplazamientos por Andalucía en autobuses interurbanos.**  
Con un 50% de descuento en el precio del billete.
- **Adquirir sus gafas.**  
Hasta un 55% de descuento.
- **Adquirir su audífono.**  
Del 50 al 65% de descuento.
- **Disfrutar de actos culturales y de ocio.**  
Descuentos en encuentros deportivos de primer nivel, monumentos, cines, museos, parques temáticos...
- **Acceder al Servicio de Orientación Jurídica.**  
Totalmente gratis. Infórmese en su Centro de Día más cercano.
- **Disfrutar de plaza de Estancia Diurna o Respiro Familiar.**  
Con importantes bonificaciones.
- **Acceder al Servicio de Comedor de los Centros de Día.**  
Con un 50% del precio del menú (sólo modalidad Oro).

これはカードに同封されていた特典説明の一部です。介護申請や眼鏡・補聴器等の購入に割引があるのを初め老人向けサービスが色々並べてありますが、私達が一番嬉しいのは上から二番目のバス料金の半額割引です。

autobuses interurbanos というのは都市間のバス、市内バスではなく別の町や村に行くバスですね、勿論コレは州のカードですから州内の各都市間と解釈すべきでしょう。とにかくコレでアンダルシア州内なら一人は半額で行けるようになりました。二人分合わせて考えれば25%引きです。Rは電車も4割引ですが、往復を買うとNには往復割引がつくのでトータルとしては電車のほうがやや有利かもしれません。但し通常はバス料金より電車のほうが割高のところが多い。また、快適度は電車に分  
があります、鉄道網はゴク限られているし、便数もめっぽう少ない。

結局コレまでどおり、電車が通っている所へは電車で、なければバスでということになるでしょう。コレまでと違う点は、どちらで行ってもチョット遠出をすると、すぐ  
ビノ一本はタダになるということ。メデタシ、65才。\*\*\*